

公共図書館における読書犬による読書支援サービス

豊富 瑞歩

読書犬プログラムとは、子どもの読み聞かせを読書犬が寄り添って聞くことによる公共図書館の読書支援サービスである。読書犬の監督者であるハンドラーは、読書犬と共に読み聞かせを聞くが、読み聞かせの指導や子どもの誤りの指摘は行わない。読書犬プログラムは、子どもの読書や発達に関する様々な課題の解決に役立つ。

本研究では、公共図書館における読書犬を活用した読書支援サービスについて、海外と日本の実態を明らかにすることを目的とした。研究対象は、読書犬プログラムが児童サービスとして定着しているアメリカ・ドイツ・フィンランドの公共図書館と、読書犬プログラムが広がりはじめている段階にあるラトビア・日本の公共図書館である。研究方法として、ウェブサイト調査、参与観察調査、対面インタビューを用いた。

研究の結果、以下の三点について明らかになった。第一に、読書犬プログラムに対する公共図書館の目的意識について、実施国別の特徴と傾向が明らかになった。識字力や読解力の向上の目的意識が強い傾向にあるのは、アメリカ・ドイツ・ラトビアの読書犬プログラムであった。読書への関心を高める目的意識が強い傾向にあるのは、アメリカ・フィンランド・日本の読書犬プログラムであった。読書犬とふれあうことで心の発達を促す目的意識が強い傾向にあるのは、ラトビア・日本の公共図書館であった。子どもの読書支援という理念は、全ての調査対象国に共通していた。

第二に、公共図書館に読書犬・ハンドラーを派遣する非営利団体について、読書犬プログラムの国際的な周知に貢献していることが明らかになった。アメリカでは非営利団体が国外にも活動拠点を広げて読書犬プログラムの世界的普及に寄与し、フィンランドではハンドラーによる読書犬の SNS アカウント運用が国境を越える情報拡散に役立った。

第三に、読書犬プログラムを実施する公共図書館における公的機関や非営利団体との連携について明らかになった。公的機関が読書犬プログラムの実績を認めて公共図書館に多額の資金を提供したドイツの例、行政の予算により公共図書館と非営利団体が合同で読書犬プログラムの公的指針を示したフィンランドの例、公共図書館が非営利団体と協働してプログラムの進行やリスク管理に関して万全な協議に努める日本の例が挙げられる。

本研究を通して、海外と日本の公共図書館における読書犬プログラムの実態を分析することで、公共図書館の読書犬プログラムに対する目的意識の実施国別の特徴と傾向、読書犬プログラムの国際的な周知に関する非営利団体の貢献、読書犬プログラムを実施する公共図書館と公的機関・非営利団体の連携が明らかになった。今後は対象国を広げた調査や非営利団体のハンドラーを対象とする調査を実施することにより、読書犬プログラムの多様な側面や詳細な現状について解明することが可能である。

(指導教員 吉田右子)